

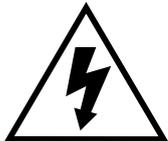


G90 ワイヤレスレシーバー

取扱説明書

ガイドは、www.line6.jp/manuals から入手できます。

【重要】安全にお使いいただくために



注意

内部を開けないでください。
感電の恐れがあります。



警告：火災や感電を防ぐため、ねじ等を外さないでください。このなかに一般使用が可能な部品はありません。製品に問題がある場合は弊社までお問い合わせください。

警告：火災や感電を防ぐため屋外には置かず、水に触れないようにしてください。

認 証

本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの Part 15 (第 15 部) に準拠しています。本製品は以下の二つの条件のもとで使用してください：

(1) 本製品を有害な妨害行為に使用しないこと (2) 意図されない動作を起こすものであっても干渉信号はすべて受信すること。

警告：Line 6 が書面に明確に許可している場合を除き、本製品を変更・修正すると使用権が無効となる場合があります。

無線周波数について：本製品を、他のアンテナやトランスミッターと同一場所に設置および同時に使用することは避けてください。

注意：本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの「クラス B デジタル機器」に準拠するようテストおよび製作されています。これらのルールは住宅への設置において有害な妨害・混信から合理的に保護されるよう定められています。本製品は電磁波を発生、使用、放射するため、取扱い説明書に従って使用されない場合には無線通信の障害の原因となることがあります。本製品がラジオやテレビの受信に障害を発生させる場合には、以下の方法をお試しください。なお本製品が原因かどうかを調べるには、本製品のスイッチをオン/オフしてご確認ください。

- 受信アンテナの向きを変える、もしくは設置場所を変える
- 本製品と受信アンテナの設置場所を離す
- 本製品と受信アンテナを別回路のコンセントに接続する
- 経験豊かな電波 / TV の技術者に助力を求める

このクラス B デジタル機器はカナダの ICES-003 および NMB-003 に準拠しています。



安全性に関する以下の重要な指示を必ずご一読の上、安全な場所でお使いください。



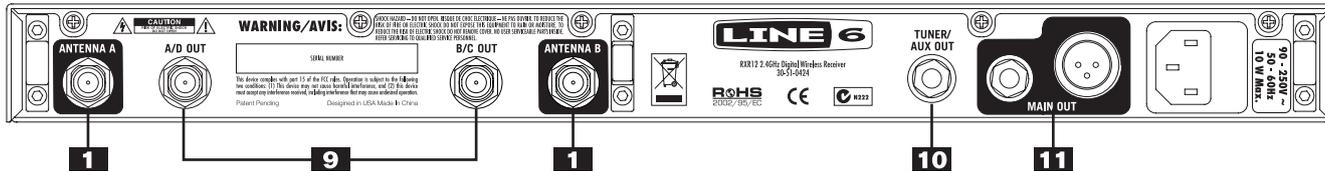
- 本書の注意事項を良くお読みください。
- 本書の注意事項を守ってください。
- すべての警告を守ってください。
- すべての指示に従ってください。
- 本機を水気の近くで使用しないでください。
- お手入れは必ず乾いた布で拭いてください。
- 通気口をふさがないようにください。取扱説明書で指定された場所に設置してください。
- 適切にアース接地されたコンセントに接続してください。
- 本機の電源プラグが合わないような場合は、電気工事を依頼し適切なコンセントに交換してください。
- 電源コードの接続部を無理に曲げたり踏んだりしないようにしてください。
- 必ず指定された付属品を使ってください。
- 本機の設置は弊社の推奨するカート、スタンド、ブラケットなどを使用してください。移動式のカートを使うときは転んでけがをしないように注意してください。
- 雷が近づいたり、長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
- パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき、内部に異物が入ったり液体がこぼれたとき、本機を落としたときなど、修理が必要な時はサービスセンターに依頼してください。
- 水滴のかかる場所での使用や保管はしないでください。本機の上に花瓶のような液体の入ったものは置かないでください。
- 警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水のかかるところには設置しないでください。
- 本機はコンセントの近くに設置し、容易にプラグへ手が届くようにしてください。
- パワーサプライのプラグは必ず AC100V 50/60 Hz の電源コンセントに差し込んでください。
- 大音量や不快な音量で長時間使用すると難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。
- 次のような場合には修理が必要です。
 - パワーサプライのコードやプラグが損傷したとき
 - 本機の内部に異物が入ったり、液体が入ったりしたとき
 - 雨天や湿度の高いところで使用し、故障したとき
 - 本機が落下したりして損傷したとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき



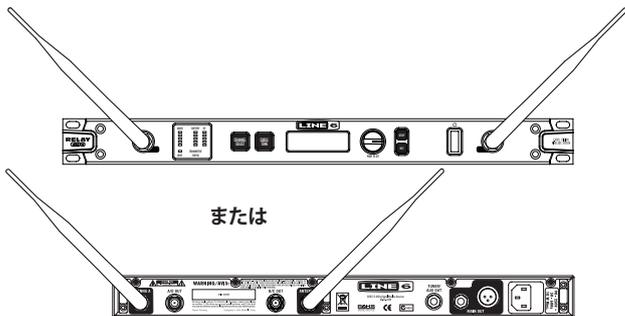
Line 6, Inc.:
26580 Agoura Road,
Calabasas, CA 91302-1921 USA

The POD, Clifton House, Butler's Leap
Rugby, Warwickshire, United Kingdom, CV 21 3RQ

基本操作



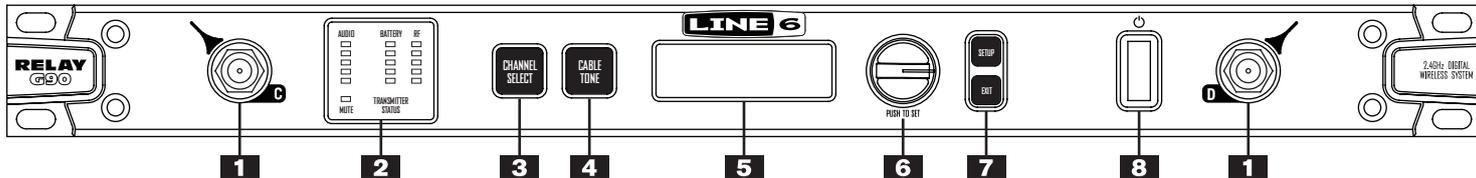
1. **Antenna A & B 入力端子 (BNC)** — フロントパネル側 (C & D) またはリアパネル側 (A & B) のいずれかの BNC 端子に接続します。ラックに合わせて選んでください。



9. **Antenna A/D & B/C 出力端子 (BNC)** — 複数の Relay G90 をデジータッチェーン接続するには、この端子を使用します。**Antenna A & B**、または **C & D** のいずれかを出力できます。どちらのアンテナを出力ヘルレーティングするかは、ユーザーが選択できます。追加のレシーバーとトランスミッターは、別のチャンネルに設定してください。

10. **Tuner/Aux Out** — 外部チューナーと接続する場合、または 2 番目のオーディオパスへ出力する場合はこの出力を使用してください。**Main Out** がミュートされていても、**Tuner/Aux Out** からは出力されます。

11. **Main Out** — アンプやエフェクトペダルへ接続する場合は、1/4 インチ出力を使用してください。ミキシング・コンソールなどバランス XLR 接続をサポートするスタジオグレードの機器へ接続する場合は、バランス XLR 出力を使用します。



1. **ANT C & D端子 (BNC)** —正しく動作させるには、同梱される取り外し可能なアンテナを、BNC端子を押し込みながら時計方向へ半回転させてください。**注意: ANT C & D入力 は DC バイアス されていません。**

2. TRANSMITTER STATUS ディスプレイ

Audio —緑のLED表示はオーディオ信号のレベルを示します。

Battery —電池のレベルが充分である場合は、電池LEDが5つ全て点灯します。電池の残量が2時間を下回った時には、一番下のLEDが赤の点灯に変わり、1時間を下回ると赤く点滅します。

RF —トランスミッターがオンで受信側と同じチャンネルに設定されている場合は、このLEDは緑に点灯して信号の強さ/質を以下のように表示します：緑×5 = “データ良好、干渉弱”、緑×1 “データ最少、干渉の危険大”。トランスミッターがオフ、あるいはレーザーとは異なるチャンネルに設定されている場合、このLEDは以下のように表示されます。LED消灯=データ無し、干渉無し。赤×1=データ無し、干渉多少有り~赤×5=データ無し、干渉大。

Mute —このLEDは送信側がミュートされていることを意味します。

3. **Channel Select** —送信側と受信側は必ず同じチャンネルに設定してください。どちらも出荷時はチャンネル1に設定されています。チャンネルの設定を変える場合は以下の方法で行ってください。

- **Channel Select** を押し、**Edit ノブ** を回してチャンネルを選びます。**Edit (Push To Set)** ノブを押してチャンネルを決定します。
- パイロット・ハンドブックに記載されているとおりに、送信側のチャンネルも同じチャンネルに合わせて設定してください。

Scan Channel 機能を使って干渉可能なチャンネルを調べたり、利用に最も適

したチャンネルを選ぶことができます。:

- **Channel Select** ボタンを押してから **SETUP** ボタンを押します。
 - 利用できる14チャンネル全てがディスプレイに表示されます。最も適したチャンネルはハイライトで表示され、送信側が既にオンに設定されている場合には、現在設定されているチャンネルが示されます。
 - **Edit ノブ** を回し、ハイライト表示された最適なチャンネルを選んでください。送信側も同じチャンネルに設定してください。
4. **Cable Tone** —ギターケーブルにはキャパシタンス(容量)と呼ばれる電気特性が元から備わっています。つまりケーブルが長くなるにつれ、信号の損失や減衰がより多く生じる事になります。CABLE TONEを使う事で、長さの異なるギターケーブルやスタイルの効果をこのエフェクトで再現させることができます。
5. **ディスプレイ** —ディスプレイには通常、現在受信しているチャンネルを表示すると共に、電池の残量とアンテナ周波数の信号強度が表示されます。ディスプレイにChannel Select、Cable ToneとSetupオプションを表示させることもできます。
6. **Edit (Push To Set) ノブ** —チャンネルの番号や、セットアップ機能等、現在選択しているパラメーターを調整する場合は、このノブを使用します。設定が終了してから、**Edit ノブ** を押し込み、変更を決定してください。
7. **SETUP ボタン** —SETUPパラメーターのリストを見る場合は、SELECT ボタンを押してください。リスト内を移動する場合は、**Edit ノブ** を回してください。パラメーターをエディットする場合は、Select ボタンを押してから、**EDIT ノブ** を回して **EDIT ノブ** を押ししてその値を決定してください。**Setup** ページを終了する場合は、**Exit** を押します。
8. **電源スイッチ** —このスイッチでG90レーザーの電源をオン/オフします。

画面操作



トランスミッターを使用していない状態で電源を入れた場合、LCD画面は現在選択されているチャンネルを表示します。Line 6機器が何も検知されていないため、**RF LEVEL**は、上記のように表示されます。



トランスミッターが検知されている通常の操作の場合、LCD画面には現在選択されているチャンネルで検知したトランスミッターの名称、あるいはモデル番号が表示されます（モデル番号はトランスミッター側で選択したデフォルトです）。**B** & **A**の両側に表示されるバーの数が、RFアンテナの信号強度を表します（5本＝強、3本＝中、1本＝弱）。電池の残り使用時間が、電池アイコンの左側に時：分で表示されます。

注意：電池残量計は20分単位で表示が変わります。機器の電源を切った直後に再び電源を入れると、電池残量が実際よりも多くあるかのように表示される事があるので注意してください。充電可能なアルカリ電池を使用する事もできますが、残量計の時、分の表示は充電式でないアルカリ乾電池を対象に設定されているため、正確に表示されない場合があります。

チャンネルの選択&ケーブル・トーン

Channel Selectモード：チャンネル1～14を選択します（このモードに入るときは**CHANNEL SELECT/TOGGLE ボタン**を使用します）。



Channel Selectモードは、操作のためのチャンネルを選択し、使用中の他のLine 6トランスミッターを検索するときに使用します。このモードに入り、**Editノブ**を回せば、操作で使用するチャンネルを選択することができます。これは単なるレビューであり、実際のチャンネル変更は**Editノブ**を押して選択を保存するまでは実行されません。



Channel Scanモードに入る際はChannel Selectモードに入っている状態でSETUPボタンを押します。このモードを使用することで、RF環境をスキャンして使用していないチャンネルを探し出し、その結果を表示することができます。このメニューからチャンネルを選択する場合は、**Editノブ**を回して任意のチャンネルを選び、**Editノブ**を押してチャンネル変更を保存してからメイン画面に戻ります。変更を取りやめてメイン画面に戻る場合は、変更値を保存する前に**EXIT**ボタンを押します。初期設定は1です。

Cable Toneモード：**CABLE TONE** ボタンを押すとこのモードに入ります。



Editノブを回して設定を変更します。設定の変更は直ちに反映されます。Cable Tone機能を無効にする場合は、このメニューの中で**Editノブ**を左方向へ「DISABLED」が表示されるまで回します。気に入ったトーンが決定したら、**Editノブ**を押して保存を行い、メイン画面へ戻ります。あるいは変更を保存せずに**EXIT**

ボタンを押してメイン画面へ戻る事もできます。最初の選択は3FT（フィート）、次が5FTとなり、選択は30FTまでは5FTの単位毎に増加し、その後、100FTまでは10FTの単位毎に増加します。最大の選択値は125FTとなります。変更値を保存する前にEXITボタンを押すと、変更値はキャンセルされメイン画面に戻ります。初期設定は、DISABLEDです。

SETUPメニュー

Setup モード: (セットアップに入るときはSETUPボタンを押します。)

G90のアドバンスド・パラメーターをセットアップするときは、**SETUP**を押し、**Edit ノブ**を使用してメニュー・オプションをスクロールします。エディットする場合は、目的とするオプションがハイライトされ、画面上に大きい文字で表示されている状態でエディット・ノブを押します。エディット・ノブを回して表示域の中の値を変更します。気に入った値が表示されたら、**Edit ノブ**を押して変更値を保存します。変更を取りやめて変更前の値へ戻りたい場合、保存操作をまだ行っていない状態であれば、このエディット・モードの使用中に**EXIT**ボタンを押してキャンセルすることができます。どのSetupページからでも**EXIT**ボタンを押すことで、いつでもメイン画面に戻ることができます。Setupモードで操作を全く行わない状態が約30秒間続くと、LCDは自動的にメイン画面に戻ります。

ANT INモード: A&B、C&DまたはALL

ANT IN: A & B
ANT OUT: OFF
TOGGLE: DISABLED

上記のように現在のオプションが大文字で表示されるまで**Edit ノブ**を回します。

ANT IN: A & B
ANT OUT: OFF
TOGGLE: DISABLED

Edit ノブを押すとそのオプションは反転表示に変わり、値が変更可能であることを示します。

ANT INで、システムに使用するアンテナを選択することができます。電波の受信

に適したアンテナが4本用意されています。**Edit ノブ**を回して選択します。画面に表示されている選択で実行する場合は、**Edit ノブ**を押して保存を行い、メイン画面へ戻ります。**EXIT**ボタンを押せば、いつでも変更を取りやめて変更前の選択に戻ることができます。

- A&Bは、2本のリア・アンテナを使用します。
- C&Dは、2本のフロント・アンテナを使用します。
- ALLは、4本のアンテナ全てを使用します。

使用しているアンテナだけを選択する事をお勧めします。2本のアンテナしかユニットに装着されていないにも関わらず、ALLを選択した場合、性能が低下する恐れがあります。

重要: 本来の機能を正常に発揮させるためにも、アンテナの選択はユニットに装着されているアンテナに合わせて選んでください。

注意: ANT INの選択で変更を行うと、ANT OUTは自動的にOFFに設定されます。初期設定は、C&Dです。Line 6のアクティブ・アンテナを使用する場合は、A & Bインプットにのみ接続します。これらのアンテナから、適切な動作を行うための電源が供給されます。

ANT OUTモード:A&B、C&DまたはOFF

ANT IN: A & B
ANT OUT: OFF
TOGGLE: DISABLED

ANT OUTは、ユニット背面のOUT端子ヘルレーティングするアンテナの選択に使用します。高周波信号の受信に適したアンテナ2セットが用意されています。

- A&Bを選択すると、2本のリア・アンテナからRF出力ジャックヘルレーティングされます。
- C&Dを選択すると、2本のフロント・アンテナからRF出力ジャックヘルレーティングされます。
- ANT INがALLに設定された場合、ANT OUTでの選択オプションはA&B、C&DとOFFになります。
- ANT INへ何らかの変更が行われると、ANT OUTは強制的にOFFになります。

TOGGLEモード:Toggle機能のためのチャンネル。初期設定はDISABLEDです。

ANT OUT: OFF
TOGGLE: DISABLED
BACKLIGHT: WHITE

複数の楽器を使用するときにTOGGLEで2つのチャンネルを選べば、素早く切り替えることができます。このメニューの中から2つのチャンネルを選びます。Editノブを使用して最初のチャンネルを選び、再度Editノブを押してその変更を保存します。

ANT OUT: OFF
TOGGLE: CH 1
BACKLIGHT: WHITE

2番目のオプションが同じLCD画面に表示されます。Editノブを使って2番目のチャ

ンネルを選び、Editノブを押して保存します。

ANT OUT: OFF
TOGGLE: CH 1-CH 2
BACKLIGHT: WHITE

チャンネルの選択が終わるとメイン画面の表示が変わり、Toggleモードに入ったことが確認できます。これによりCHANNEL SELECTボタンの機能が変更されます。

CHANNEL SELECT ボタンを押すたびに、選択した2つのチャンネル間を切り替えることができます。Toggle モードを終了する場合は、このメニューに入ってからDisabled オプションを選択して保存します。下記のメイン画面でToggleが使用可能になったことがわかります。CHANNEL SELECTを1.5秒間長押しすると、Toggle機能が解かれて現在使用しているチャンネルを表示する「Channel Select」画面に戻ります。

最初に選択したチャンネル:

TC 1: LES 2
6:40 [電池] [B] [A]

CHANNEL SELECT ボタンを押して2番目のチャンネルに切り替えます:

TC 2: TYLER
6:40 [電池] [B] [A]

BACKLIGHTカラーモード

TOGGLE: CH1 CH2
BACKLIGHT: WHITE
CONTRAST: 12

BacklightモードでLCDバックライトの色を変更することができます。

CONTRAST

TOGGLE: CH1 CH2
BACKLIGHT: WHITE
CONTRAST: 12

CONTRASTでLCDのコントラスト（輝度）を変更することができます。このメニューに入ると、現在のコントラスト・レベルが画面に表示されます。コントラストは20段階あります。初期設定は12です。

G90 レシーバーのAFゲイン調整 （ファームウェア・バージョン2.0以降）

G90 レシーバーからの出力の初期設定は+0dBつまりユニティ・ゲインになっています。シールドでギターを接続しているのと同じ入力レベルでG90をアンプに接続することができます。ゲインのブーストまたはアッテネートが必要な場合は、以下の手順でG90のAFゲインを調整することができます。

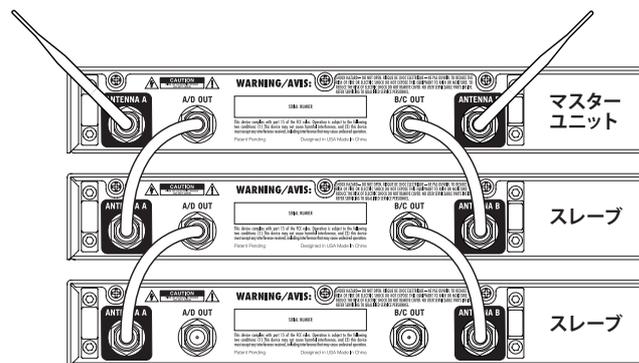
SETUP ボタンを押して、[AFゲイン] が表示されるまで **Editノブ** をスクロールします。**Editノブ** を押して選択してください。ディスプレイのハイライトされたラインに-18dBから+12dBの数値が表示されます。初期設定では[AFゲイン: +0dB]と表示され、範囲内で1dB単位で増減できます。ゲインを増幅するには時計回りに、減少させるには反時計回りに **Editノブ** を回してください。

ゲインを増幅または減少させるために **Editノブ** を回すと、レベルの変化はすぐに反映されます。お好みのレベルに達したら **Editノブ** を押し、変更を決定してください。

一般的には[AFゲイン: +0dB] またはユニティ・ゲインの位置を使い、ギター・アンプのトリムまたはゲイン・コントロールを調整して信号のレベルをブーストまたは低減させます。たいていの場合はこのセッティングによりオーディオ・システム全体で最良のSN比が得られます。

マルチシステムと内蔵アンテナ・ディストリビューション

パッシブ・アンテナをリア・パネルの **ANTENNA A** と **ANTENNA B** コネクタ、あるいはフロント・パネルの **ANTENNA C** と **ANTENNA D** コネクタに接続します。Ant In及びAnt Outメニューでは適切なアンテナを選びます。これら2本のアンテナを使用するだけで、このマスターユニットから最大6台のユニットをデジチェーン接続してマルチ・システムとして使用することができます。2本の15cm LMR-195 (50Ω) 同軸ケーブルで、マスターユニットのRF出力とスレーブユニットのRF入力を、それぞれのリア・パネルで対応させて接続します。接続する器機をさらに加える場合は同じ手順を繰り返します。以下を参照してください。入力と出力に使用するアンテナの選択は、必要に応じてA&B（リア・パネル）またはC&D（フロント・パネル）を選ぶことができます。これはソフトウェアによる選択です。



BNCターミネーター

OUT端子用には、この端子を使用しない際に回路を終端させるための50Ω BNCターミネーターが用意されています。これにより、ANTENNA A & B入力における不必要なRF干渉を防ぐことができます。マルチレシーバー・システムとして動作させない場合は装着しておくことをお勧めします。マルチ受信システムとして使用する場合には、連結の最後に接続するレシーバーにこのターミネーターを1セット装着します。

G90のアンテナ

G90は1/2波長アンテナに最適化されています。オプションとしてこのアンテナは外しLMR-195(50Ω)ケーブルを最大3mまで伸ばすことができます。

ギター・リグにG90レシーバーを取り入れる際には、アンテナが金属製ラックケースの内側にはなく、またケースの金属部分に接触していない事を必ず確認してください。アンテナをフロントまたはリアマウントで使用する場合は、レシーバーをリグのラックスペースの最上部に開いて設置してください。アンテナは45°の角度に開いて設置します。

最適なRFパフォーマンスの達成方法

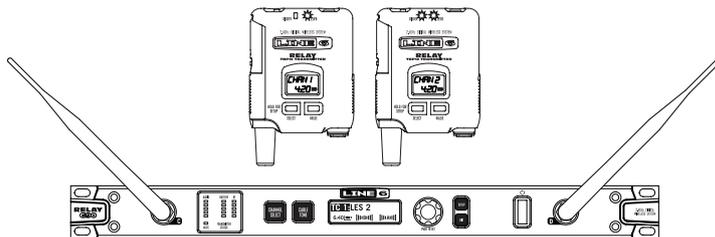
- トランスミッターとレシーバーのアンテナを見通し線上に維持する。
- トランスミッターとレシーバーの設置は金属を素材にした物がある場所を避ける。
- アンテナをリモート設置していない限り、レシーバーをラックの最下段に置くことを避ける。
- レシーバーの設置は他のRFを発生する機器の近くを避ける(3mは離す)。
- レシーバーのアンテナをリモート設置する場合は規格に合ったケーブルを使用する。最高のパフォーマンスを目指すのであれば、LMR-195同軸ケーブルを使用する。
- アンテナをリモート設置する場合は、Line 6 P180またはP360アクティブリモート・アンテナ・キットを使用する。
- レシーバーの設置は、他のRFを送信する機器の付近を避ける(インイヤータイプのトランスミッター等のRF送信機からは、少なくとも3mは距離を置いてG90レシーバーを設置することをお勧めします)。
- G90を1/2波長アンテナと使用する際の有効範囲は、最適な条件下で100mです。

注意:実際の作動範囲はRF信号の吸収、反射と干渉の状態に依存します。セットアップと使用方法に関しては、P180またはP360リモート・アンテナの取扱説明書を参照してください。

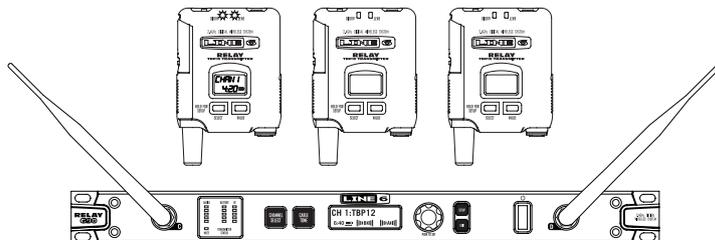
マルチ・トランスミッター/レシーバーのセットアップ

セットアップ次第で複数のTBP12トランスミッターを使用して複数のギターからの転送をカバーできます。複数のトランスミッターを使い、単一の出力から1台のアンプへ接続するシステムをセットアップするには、以下の3つの方法があります。

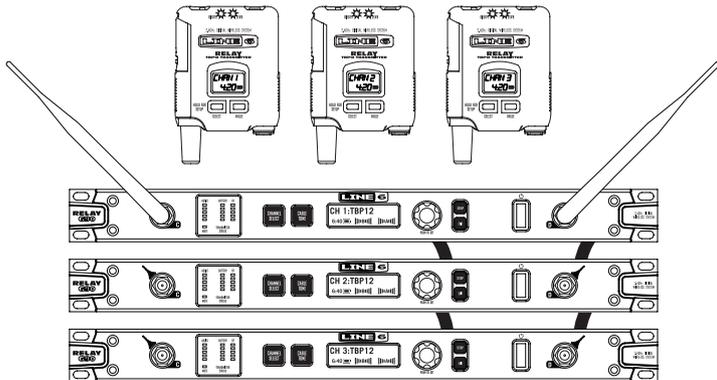
1. **セットアップ1**—2台のトランスミッター(TX)、1台のレシーバー(RX)をChannel Toggleモードで使用します(操作については上記のToggle機能を参照)。Toggle機能を設定すれば、フロント・パネルの**CHANNEL SELECT**を押すだけで選択した2つのチャンネルを切り替えることができます。**注意:**レシーバーがあらかじめ設定されたチャンネルに切り替わるのに2~3秒間かかります。別々のチャンネルで2台以上のトランスミッターが必要な場合は、続きをお読みください。



2. **セットアップ2**—3台またはそれ以上のトランスミッター全てを同じチャンネルに設定し、1台のレシーバーを同じチャンネルに設定します。3台のトランスミッターを同じチャンネルにセットアップし、作動していないTXユニットをオフにしておきます。この方法により、レシーバーは任意のアクティブなトランスミッターのみ、つまりアーティストが装着したトランスミッターだけから通信します。ただし同時に2台のトランスミッターが不注意でオンになった場合は、レシーバーに最も近いトランスミッターがレシーバーにつながります。結果が予測できないため、こうした切り替え方法はお勧めできません。



3. **セットアップ3**—3台(またはそれ以上)のTXユニットを3台(またはそれ以上)のRXユニットと1台の入力セレクターをセットアップします。同数のG90レシーバーをラックマウントし、各TXと同じチャンネルに設定して、複数のオーディオ出力から入力セレクター・スイッチへと接続します。(www.tourssupply.comから入手可能なWhirlwind Rackmount MultiSelectorをお勧めします。)このセットアップにはLine 6 P180リモート・アンテナを使用することをお勧めします。さらに詳しい内容に関しては、Line 6 P180リモート・アンテナ・ユーザーガイドを参照してください。リモート・アンテナの設置終了後は、レシーバーユニットをLMR-195パッチ・ケーブルで連結することができます(「マルチシステムと内蔵アンテナ・ディストリビューション」のセクションを参照してください)。セレクター・スイッチのオーディオ・アウトをアンプに接続します。



注意:外部アンテナを使用すると、最大6台までG90レシーバーを共に連結することができます。レシーバーを連結した場合は、連結した最後のレシーバーにターミネーターを取り付けてください。

TX使用電力

マルチ・システムを使用する際には、RF状況に支障が無い限りトランスミッターをローパワー・モードで使用されることをお勧めします。

トラブルシューティング

問題点	原因	解決策
音が出ない	システムの電源が入っていない。元となるソース機器の故障。接続に誤りがある、またはチャンネル選択に誤りがある。電池切れ。	電源、シグナル・ソース、ケーブルまたはRF
断続的なサウンド	元となるソース機器の故障。接続に誤りがある。複数のトランスミッターが同じチャンネルに設定されている。トランスミッターが伝達範囲を超えた。送信の間に金属の壁がある。現場に正体不明のRFソースがある。	シグナル・ソース、ケーブルまたはRF
範囲不足	アンテナの接続が正しく行われていない、または不足している。複数のトランスミッターが同じチャンネルに設定されている。現場に正体不明のRFソースがある。	RF

電源

トランスミッターとレシーバーが十分な電源を得ているかどうか確認してください。ボディバック・トランスミッターには2個のアルカリ単3電池による3VDCが必要です。トランスミッター側及びレシーバー側の電池の残量表示を確認し、必要であれば電池を交換してください。G90レシーバーには120V/240VACへのIEC接続が必要です。

シグナル・ソース

信号の送信元となるソースのパワー (RF)、信号レベル (AUDIO) と接続をチェックし、期待通りに作動していることを確認してください。必要な場合は、デジタル・ワイヤレス・トランスミッションをバイパスした状態でソースを直接確認してください。

ケーブル

接続やケーブル配線全てが正しく行われていることを確認してください。

RF

現場の不明なRFを調べます。確認できるトランスミッターを全てオフにします。レーザーのフロント・パネルのインジケーターでRF LEDが点灯しているかどうか確認してください。どれも点灯していない場合は、現在選択しているチャンネルがRF信号の存在を何も検知していないことを意味しています。1つあるいはそれ以上が点灯した場合は、レーザーが不明なRF信号の存在を検知したことを意味しています。

他のLine 6 RFを確認する

既知のトランスミッターを全てオフにします。前述のチャンネルの選択のセクションに記載されているChannel Scanモードの手順に従ってください。チャンネル全てをフリーにしてください。

WLAN/WIFI

Line 6 Relayが使用中のWLAN/WiFiに影響を与えた場合は、以下の手順を実行してください：

1. TXユニットの節電モードをオンにします。
2. 最も近い場所にあるRelayトランスミッターを移動させ、影響を受けたユニットが許容できるレベルになるまで遠ざけます。最低条件としてこの距離での操作を続けてください。

注意：許容範囲のパフォーマンスを実現するための条件は、場所や距離、WLAN/WiFiのタイプにより異なりますが、最低でも2mの距離を置くことをお勧めします。

G90, G50 & G30を一緒に使用する

G90では14チャンネルを使用でき、1-12チャンネルはG50と、また1-6チャンネルはG30と共有しています。Line 6 2.4 GHzトランスミッターは全てのLine 6 2.4 GHzレーザーで動作し、低い方のスペックやチャンネル数、機能となります。全ての2.4GHz Line 6トランスミッターは、全てのLine 6 2.4GHzレーザーで動作し、チャンネル数や機能、その他の制限は最も低い状態に揃えられます。

技術仕様

電源の必要条件	IEC 90 ~ 250V, 50 ~ 60Hz, 10W Max.
ギター入力インピーダンス	1,3M
出力インピーダンス(1/4 インチ)	1500Ω
出力インピーダンス (XLR)	600Ω
入力端子	TA4f
乾電池の寿命	ハイパワーで8時間/ローパワーで10時間
ダイナミック・レンジ	>120dB A-weighted
周波数特性	10 ~ 20kHz, -2.5dB
シグナル・コンプレッション/ エクスパンション	無し
歪み率	0.03% THD
TVの電波干渉を受け易い	いいえ
周波数モデル	1 (北アメリカと世界中で使用可能)
RFレンジ	2.4GHz (許可不要ISM帯域)
選択可能なチャンネル	14チャンネルを常に同時使用可
最大同時チャンネル	14チャンネルを常に同時使用可
電池の残量表示	トランスミッター、レーザー両方の電池残量計
FCC承認	ライセンス不要

TA4f 配線

ピン1：シールド (スリーブ)

ピン2：未使用

ピン3：シグナル (TIP)

ピン4：シールド (スリーブ)